



日曜日の朝、散歩中に見た光景である。

その雰囲気から、葬儀と関連があることはすぐわかる。

場所は、この地区（バランガイ）の集会所である。

そこが、この日、遺体安置場所に変わっていた。

入口には、葬儀屋が貼ったと思われる告別式の案内、

その中に、享年47歳と書かれている。

まだ天国に召されるには早すぎるではないか。

死化粧が施された顔は安らかなるも、無念の気持ちも読み取れる。

棺（ひつぎ）の傍らのベンチに眠る少女。

そしてこれをいたわるように膝をかす男。

見ず知らずの人ではあるが、死者が送ってきた人生にいろいろな思いを馳せる。